

[芸術教育記録]

## 中等教育教員養成における美術科指導

—ワークシート作成と運用における指導方法の事例 / その1—

### Art Teaching Methods in an Art Teacher Training Curriculum in Secondary Education

—A Report of its Design and Using Worksheet Activities—

高橋 愛

Ai Takahashi

#### 1. はじめに

本学芸術学部には、パフォーマンス・アーツ学科、メディア・デザイン学科、ビジュアル・アーツ学科の3学科（以下、「PA学科」「MD学科」「VA学科」）がある。学生は、それぞれの学科に所属しながら教職課程を受講することができる<sup>1)</sup>。教職課程を受講し、取得できる教員免許状は、中学校一種免許状（音楽）（美術）、高等学校一種免許状（音楽）（美術）（工芸）である。そのうち、美術分野の中学校一種免許状（美術）と高等学校一種免許状（美術）は、MD学科またはVA学科に所属の場合、取得できる。高等学校一種免許状（工芸）は、VA学科所属の場合、取得できる。

本授業記録は、中学校一種免許状（美術）、高等学校一種免許状（美術）（工芸）を取得できる「美術科」免許状の取得を目指す学生たちを対象に開講した授業の記録である。記録対象となる授業は、必修科目「美術科指導法」の一部と「教育実習事前指導」（以下、「事前指導」）の一部である。これら二科目を関連付けて科目内容を設定している。なお、科目の一部を関連付けるのは、あらかじめ決められたきまりではなく、本記録執筆者であり、授業担当者である高橋が独自に行っていることである。

これまでに、「美術科指導法」や「事前指導」の本学のカリキュラム位置づけ、授業計画や履修する学生たちの特徴についての大体を報告してきた<sup>2)</sup>。本記録では、両科目を関連付け、実施した部分について記録していく。事例の対象となった履修学生は、2013年度入学生である。

#### 2. 授業の概要

授業事例の記録の前に、関連付けの対象となった二つの科目についてふれておく。

## 2.1 「美術科指導法Ⅰ」と「美術科指導法Ⅱ」

先に「美術科指導法」と記したが、正確には「美術科指導法Ⅰ」「美術科指導法Ⅱ」「美術科指導法Ⅲ」「美術科指導法Ⅳ」がある。「美術科指導法Ⅰ」「美術科指導法Ⅱ」は必修科目である。「美術科指導法Ⅲ」「美術科指導法Ⅳ」は選択科目である。「事前指導」と関連付けているのは、「美術科指導法Ⅰ」であるため、本記録では、「美術科指導法Ⅰ」と「美術科指導法Ⅱ」（以下、「指導法Ⅰ」「指導法Ⅱ」）の概要を記す。

開講時期：指導法Ⅰ 3年生 春学期（4月から7月）

指導法Ⅱ 3年生 秋学期（9月から翌年1月）

履修者数：両科目 10名程度（年度、学期によって異なる）

授業回数：両科目 15回

授業計画：両科目 表1を参照

「指導法Ⅰ」は、美術科教育の基礎的知識を習得させる。「指導法Ⅱ」は、模擬授業や教材研究を中心とした授業である。「指導法Ⅰ」や「事前指導」での学習内容を振り返らせ、意識させながら、授業計画を立てたり、ワークシートを作成したりさせている。

## 2.2 「教育実習事前指導」

開講時期：3年生 秋学期（9月から翌年1月）

履修者数：30名程度（年度によって異なる）

授業回数：15回

授業計画：表1を参照

「事前指導」は、本学部の学生が、音楽科免許状取得希望者と美術科免許状取得希望者との区別なく、教育実習に行く学生が必ず履修する。そのため、表1に挙げた内容を音楽・美術の区別なく一緒に履修する。ただし、第5回から第8回は教科の専門性を重視した演習となるため、教科に分かれて授業を展開する。

## 3. 事例

2013年度入学生は、3年生となった2015年度に「指導法」と「事前指導」の授業を履修した。授業では、春学期に中学3年生と美術館へ行き、秋学期に中学2年生と美術館に行った。

協力校は、東京都港区立青山中学校である。青山中学校では、1年生から3年生まで年に1回、土曜日に「土曜美術館」という活動を行い、美術館へ行く<sup>3)</sup>。行く時期は、1年生は2月ごろ、2年生は11月ごろ、3年生は6月ごろである。行き先の美術館は大抵決まっている。1年生は、21\_21DESIGN SIGHT、2年生はサントリー美術館、3年生は森美術館である。美術館へ行き、美術の鑑賞活動を行い、前後に実施される美術の授業と関連させている。

青山中学校のこの「土曜美術館」の活動に合わせて、「指導法」と「事前指導」で学生たちが関わっている。春学期6月に中学3年生と森美術館へ行く活動は「指導法Ⅰ」として、秋学期11月に中学2年生とサントリー美術館へ行く活動は「事前指導」として関わる。ほぼ同時に「指導法Ⅱ」へつなげていく。

次は「指導法」と「事前指導」での関わりの内容、「指導法」と「事前指導」の関連部分の内容についての記録である。

表1 2015年度 授業内容（左表：指導法Ⅰ / 中央：指導法Ⅱ / 右表：事前指導）  
各科目の関連箇所は表中のグレーの部分である。

回	内容	回	内容	回	内容
1	オリエンテーション	1	復習と授業概要説明	1	総括指導・教育実習の実際
2	美術教育の現状と課題	2	子どもの表現発達について	2	教員の服務、法規
3	指導案作成方法	3	模擬授業A	3	私立学校（玉川学園）の教育
4	学習指導要領の概説	4	教材研究A	4	公立学校の教育
5	美術科教育の変遷①	5	討議A	5	美術：授業演習（A）
6	美術科教育の変遷②	6	模擬授業B	6	美術：授業演習（B）
7	学習指導要領 領域：表現	7	教材研究B	7	美術：授業演習（C）
8	学習指導要領 領域：鑑賞	8	討議B	8	美術：授業演習（D）
9	評価について	9	模擬授業C	9	教育実践の理解
10	鑑賞活動と実状	10	教材研究C	10	学級経営と特別活動
11	鑑賞活動演習①	11	討議C	11	教育実習ケースステディ
12	鑑賞活動演習②	12	模擬授業D	12	授業演習（まとめ）
13	鑑賞活動演習③	13	教材研究D	13	授業演習（総合的芸術教育・芸術教育とコミュニケーションA）
14	美術科教育の意義	14	討議D	14	授業演習（総合的芸術教育・芸術教育とコミュニケーションB）
15	総括	15	総括・試験	15	総括
試験期間	試験	試験期間	試験解説	試験期間	試験なし。日誌提出。

### 3.1 春学期「指導法」と中学校3年生の「土曜美術館」

春学期に開講する「指導法Ⅰ」では、表1の第10回で中学校の活動を見に行く。学生自身は、教科の授業を実施するための基礎的知識や実践力を身につける最初の段階にあり、授業はどう実施したら良いのか、中学生の特性はどのようなものか、美術の授業としておさえるべき点は何か、などまだ説明できない。また、中学3年生の「土曜美術館」では、近年、中学生自身が「土曜美術館」活動構築に関わり、どのような授業にするかを決めて実施される。学生は、中学生の鑑賞活動がどのように実施されるのか、中学生はどのような視点で作品を鑑賞するのか、どのようなところに興味があるのか、といった「中学生を知る」といった目的を持って、「土曜美術館」に参加する。

その後、大学にて第11回から第13回の授業で、鑑賞活動演習を行う。10分間の鑑賞の授業を計画し、模擬授業をする。授業を計画する際、「土曜美術館」での中学校の観察や関わりの中で学んだことを踏まえる。つまり、中学生に興味を持たせる方法や発問、教材作り（提示資料、配付資料、ワークシー

ト)を検討する。模擬授業では、中学生の反応をイメージしながら、生徒役と教師役に分かれて模擬授業をする。

ここで、学生たちにとって想像して取り組みにくいのが、教材作りである。とくに、ワークシートはどのようなものを作ると、生徒の理解を図りつつ、興味を持って取り組めるものとなるのか想像しにくい。そのため、ワークシートの内容が知識偏重になりがちであったり、使用文言が曖昧すぎたりして、改善点が多く見つかる。しかし、それはイメージだけの改善となり、実感できない。

### 3.2 秋学期「事前指導」と中学校2年生の「土曜美術館」

そこで、秋学期に実施される「事前指導」の「授業演習」の回を利用して、中学生と直接関わり、ワークシートを使用してみる実践演習を取り入れた。

表1にある第5回から第8回にある「美術：授業演習」の4回分のうち、「美術：授業演習（A）（B）（C）」の3回分を使って行った。それぞれの回は、10月19日（月）、11月7日（土）、11月16日（月）で実施した。

実際に中学生と交流し、一緒に美術館へ行く日は、11月7日（土）である。その活動の前後に、協力してもらっている中学校の美術教員からの指導と美術館との打ち合わせが入っている。協力校と協力教員は、東京都港区立青山中学校の森恵美子先生である。

10月19日（月）

森先生から中学校の美術科の実際を紹介してもらった。「土曜美術館」のための事前情報とその活動後、どのような授業展開を計画しているか、そのねらいは何か、どのような効果があるかを話してもらった。

11月6日（金）

この日は、準備日として授業時間外で実施した。サントリー美術館へ行き、次の情報を美術館のスタッフから聞く。美術館の概要、当日、中学生を対象にした場合にはどんなことをするか、美術館と学校の連携について、美術館の「おもしろびじゅつ帖」<sup>4)</sup>。また、次の日に使用する、学生が作成したワークシートの検討をした。ワークシートの検討は、どういう目的でワークシートを使用するか、記載情報に誤りはないか、展覧会内容と合っているか、中学2年生が活用しやすいか、などについて美術館のスタッフ、森先生、学生とで意見交換をした。ここで出た意見をワークシートに反映させて、翌日、ワークシートを準備してくることを確認した。

11月7日（土）

「土曜美術館」当日。中学校にて、自己紹介、グループごとにワークシートを活用した鑑賞活動の事前活動を行った。その後、中学校の引率教員の引率を補助しながら、美術館へいった。美術館到着して美術館の「フレンドリートーク」<sup>5)</sup>を聞いた後、展覧会会場で、グループごとに鑑賞した。鑑賞後、美術館へ向かった時と同様に引率補助をしながら中学校へ戻った。最後に、ワークシートを回収し、11月16日までにコメントを入れてくることを確認した。

11月16日（月）

森先生からフォロー。ワークシートにコメントを入れたものを回収し、中学生へ渡してもらう。

### 3.3 秋学期「事前指導」と「指導法Ⅱ」

「事前指導」でのワークシート作成とワークシート活用の実践から学んだことを「指導法Ⅱ」で活かしていく。「指導法Ⅱ」の第3回（表1）から始まる模擬授業、教材研究、これら活動を踏まえた討議には、「事前指導」での取り組みは間に合わない。そのため、「模擬授業A」では、ワークシート作

成の検討が浅い。しかし、「事前指導」の取り組みに入ると、第6回以降の活動では、ワークシート作成にも目を配るようになってくる。

模擬授業を実施する前に、必ず学習指導案を作成する。模擬授業はグループに分かれて実施する。グループで、学習指導案を一度作成し、模擬授業実施日に間に合うように、指導教員に見せにくる。ここで、授業の目標、評価、全体の計画、授業の展開について、気になる部分を指導教員から指摘する。その際に、ワークシート作成が授業にあったものかどうか学生の方から質問してくるようになる。また、教材研究や討議の際に、ワークシートについての指摘が、模擬授業実施者以外の生徒役として模擬授業を受けた学生から出てくるようになる。こういった学生のワークシートへの意識は、「指導法Ⅰ」では見られなかった点である。

## 4. おわりに

授業者として、筆者の課題は、ふたつある。

ひとつは、学生たちが「事前指導」で作成し活用し、生徒たちへ返却したワークシートの中学生の反応を調査しきれていないことだ。学生たちは、「事前指導」でワークシート作成をし、実践的に用いるために「土曜美術館」当日に必ずワークシートを回収する。そして、生徒たちに記入してもらったワークシートの状態を確認し、コメントを記して、森先生から生徒たちへ返却してもらう。その際の中学生の反応や、その後に実施される美術の授業での様子が分かれば、学生たちもコメントする、返却する、といった活動の効果を実感できよう。その実感があれば、学生たちが実際に教育実習へ行った時、教員として美術の授業を持った時、ワークシートへの意識が高まるはずである。

ふたつは、教員養成の授業において、ワークシートを作成させる事例報告やワークシート作成の先行研究や事例を探すことである。先行研究や事例を参考にしながら、今後の指導内容を検討していくこともこれからの課題である。

今後執筆予定の「その2」では、事前指導の際、それぞれの学生がどのようなワークシートを作成し、またワークシート作成準備の事前活動やどのように「指導法Ⅱ」へつなげていったのか、事例の詳細を取り上げる。

## 注

- 1) 2013年度入学生まで該当する。2014年度入学生からは、新開設の芸術教育学科に所属する場合、教職課程を受講できる。
- 2) 高橋愛「中学校・高等学校美術科教員養成における『美術科指導法』の内容」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報 第4号 2013年度』玉川大学教師教育リサーチセンター、2014年、141～145頁。  
高橋愛「中学校・高等学校美術科教員養成における『教員としての意識』の定着化」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報 第3号 2012年度』玉川大学教師教育リサーチセンター、2013年、87～92頁。  
高橋愛「2010年度 各学部・教職大学院報告 芸術学部 活動報告」『玉川大学教職センター年報 創刊号』玉川大学教職センター、2011年、58～59頁。
- 3) 青山中学校の「土曜美術館」は、2005年に始まった。詳細については、次の拙稿にまとめた。宇野慶、高橋愛、加藤悦子「美術教育における美術館と中学校の連携」『全博協 研究紀要 第17号』全国大学博物館学講座協議会、2015年、37～59頁。
- 4) 「おもしろびじゅつ帖」は、サントリー美術館が作成する子供向けの鑑賞教材。

- 5)「フレンドリートーク」は、サントリー美術館の「エデュケーション・プログラム」のひとつ。サントリー美術館のスタッフによる、初心者向けのスライドレクチャー。